

文章題テスト・説明／論説(2)

月 日
名 前

★ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

大切なのは視線しせんです。どこを見るかということですが、特に、相手の目と視線を合わせ
ることをこれはアイコンタクトといいいます。

これも文化によって違ちがいます。タトえば、バングラデッシュでは、目上に対しては下を
むいたまま話をするそうです。日本でも、昔はどちらかというところだったようですし、
今でも、日本では、子供が親に怒おこられるとき、じっと親の目を見たりはしません。話を聞
いているという印いとして、相手の目を時々は見ますが、じっと見つめることは、むしろ、
反抗はんこうの気持ちを表すことになるのではないのでしょうか。

一方、イギリスの人から聞いたのですが、小さいころ、親からしかられるとき、よく、

「私の目を見なさい！」

と言われたといいます。相手の目を見ないことは、相手の話をきちんと聞かないというこ
となのだそうです。

ただし、日本でも、相手と話をする場合には、きちんと思いを伝えるとき、時々相手
の目を見るのが普通のようにです。学生時代、面接試験めんせつしけんの時は、相手のネクタイのあたりを
見なさい、と教えられました。自分が面接員になった時の個人的印象では、ぼんやりと
目を合わせないままでいるよりは、 時々相手
の目を見てしっかりアイコンタクト
を取るほうが自信エをもって話をしていような気がします。

前に自動車の販売はんをしている人から伺うかがった話ですが、商談をする場合には、複数ぶくの相手
がいれば、必ず、一人一人の目を見るように気をつけているそうです。相手の目を見ない
で話をする、まるでその人を無視むししているような印象を与あたえてしまい、その人が気分を
ワルオくする可能性かのうせいがあるからです。これは発表をする場合などでも同じなのではないでし
ょうか。話を聞いてくれる一人一人を大切にするという思いを、アイコンタクトによって
表すことができるのです。これは大切なことです。

(森山 卓郎「コミュニケーションの日本語」より)



